

保育所の自己評価(総括)

令和 3年度

ころぼっくる第二保育園

<評価について>

評価をするにあたっては、以下のような基準で行なっています

- A — 理想的な状況にある状態
- B — 通常行われている状態
- C — 一部改善・あるべき姿に到達していない状態

I 保育理念

1. 子どもの最善の利益の考慮

項目	内容	評価			評価・改善
		A	B	C	
(1) 子どもの人権の尊重	子どもの人権に十分配慮するとともに、一人ひとりを大切にする保育を行っている。	3	8	0	多くの職員が個々の子どもに目を向け、理念・指針・目標を理解し、保育を組み立てている事が評価できる。理想を常に高く持つのは、プラスであると考えられる。
(2) 保育方針・保育目標	保育理念・指針・保育目標について理解し作成している。	2	8	1	

II 子どもの発達援助

2-1. 子どもの福祉を増進することに最もふさわしい生活の場

項目	内容	評価			評価・改善
		A	B	C	
(1) 健康・安全で心地よい生活	子どもが快適に過ごせるような環境への配慮がされている。	4	6	1	コロナ禍において、室内や玩具が適切に消毒されるよう、職員が力を合わせて丁寧に行うことが出来ている。 子ども同士の関わりの中で培う経験をさせながら、個々の気持ちを受け止め、引き出すよう常に子どもの表情や言葉に注目していく。
(2) 子どもの主体的な生活	子どもの主体的な遊びを尊重している。	2	9	0	
(3) 人との関わりを育む環境	遊びや生活を通して、子ども同士の関係や保育士との関係が育つよう配慮している。	3	8	0	

2-2. 生活と発達の連続性

項目	内容	評価			評価・改善
		A	B	C	
(1) 子ども観・発達観の理解と共有	保育指針や理念を理解し、子どもを愛護しながら育むことを共有している。	3	8	0	計画を言語化するのは、少々苦手でも月齢ごとの育ちや、個人差に配慮しながら保育することが出来ている。 発達の気になる子に対しては、担当中心で保育が行われ、十分な配慮が出来ているが、 職員全体への周知も行っていく。 遅番対応では、日常的には使わない玩具が用意されて特別感を味わいながらお迎えを待つことが出来ている。
(2) 発達過程に応じた保育	発達過程を踏まえ、全体的な計画を作成し、保育している。	3	8	0	
(3) 個人差への配慮	一人ひとりの子どもの発達に配慮している。プライバシーへの配慮がされている。	3	8	0	
(4) 生活への連続性	長時間保育のための環境が整備され、保育の内容や方法が配慮されている。	1	10	0	

2-3. 養護と教育の一体的展開

項目	内容	評価			評価・改善
		A	B	C	
(1) 乳児保育	乳児保育のための適切な環境が整備され、保育の内容や方法が配慮されている。	4	7	0	開園から各学年に見合った玩具を用意して保育に向き合っているが、環境整備は、各クラスとも毎年担当が工夫して行っている。

(2) 1・2才児の保育	1.2才児の保育のための適切な環境が整備され、保育の内容や方法が配慮されている。	4	7	0	小学校との連携は、コロナ禍で中止になることが多かったので、今後どのように連携をとっていくか、小学校とも相談して決めていく。
(3) 3・4・5才児の保育	3.4.5才児の保育のための適切な環境が整備され、保育の内容や方法が配慮されている。	4	7	0	
(4) 小学校との連携	小学校との連携や就学を見通した計画に基づいて、保育の内容や方法、保護者とのかかわりに配慮している。	3	6	2	

2-4. 環境を通して行う保育

項目	内容	評価			評価・改善
		A	B	C	
(1) 保育の環境 ・人的環境・物的環境 ・空間・自然や社会現象	子どもが心地よく過ごすことのできる環境を整備している。	3	8	0	コロナ禍でも園内で完結できるほど環境に恵まれているので、月々「安全点検」を行い環境保全に努めている。 「ころぼっくるの森」の大型遊具については、専門業者による点検整備が予定されている。
	子どもが基本的に生活習慣を身につけ、積極的に活動ができるような環境が整備されている。	4	7	0	
	子どもが自発的に活動できる環境が整備され、身近な自然や社会とかかわれるような取り組みがされている。	2	9	0	
	遊びや生活を通して、人間関係が育つよう配慮している。	3	7	1	
(2) 環境の構成 ・再構成	快適な環境に整備や空間を使つての工夫している。	2	8	0	

Ⅲ 保護者に対する支援

3-1. 家庭との緊密な連携

項目	内容	評価			評価・改善
		A	B	C	
(1) 子どもの成長の喜びを共有	子どもの様子について日々、保護者に伝えるなど情報を共有し、成長を喜び合い、共有できる機会を設けている。	2	8	1	今年度も送迎は、玄関先で行う形を続けているために、保護者と情報共有する機会があまり持っていない。その分、園の生活を動画配信を月に1回行って、日ごろの子どもの姿が見られるようにしている。 相談が必要な保護者に対しては、別途時間を作って話し合いの場をzoomで保障したが、直接面談の方が話しやすい。 今後は、十分に予防の上、機会を作っていく。
(2) 保育内容等の説明・応答責任	入所時、懇談会、保育参加等の機会をとらえ、説明・応答する機会を設けている。	3	8	0	
(3) 子育てに関する相談・援助	相談・苦情・意見などは、随時所長・副所長が窓口となり対応している。	4	6	1	
(4) 保護者への個別支援	一人ひとりの保護者の状況を踏まえ、子どもと保護者の安定した関係に配慮し、支援している。	2	9	0	

3-2. 地域における子育て支援

項目	内容	評価			評価・改善
		A	B	C	
(1) 保育所機能の開放	公開保育や電話相談、交流保育など子育て支援のための取り組みを行っている。	0	9	2	「園庭開放」を行い、相談事や育児相談を受ける体制を作ったが、まだ広報活動が十分ではなく、利用が少なかったため、次年度は、

(2) 関係機関との連携	保育所として必要な社会資源を明確にし、地域の関係機関との連携が適切に	0	8	3	地域の方にチラシの回覧をしようと考えている。
(3) 情報提供	保育所が有する機能を地域の子育て支援に関する情報提供をしている。	0	8	3	

IV 保育を支える組織的基盤

4-1. 健康及び安全の実施体制

項目	内容	評価			評価・改善
		A	B	C	
(1) 健康の保持及び増進	全職員が健康及び安全に関する共通理解を深め、適切な分担と協力の下に年間を通じて取り組んでいる。	3	8	0	年に1度は全職員が、AED/心肺蘇生講習を受けるようにし、危機管理の意識を高く持つように心がけている。 エピペン(アレルギー)については、机上の勉強なので実技講習を行っていきたい。
(2) 安全・衛生管理	安全管理のマニュアルがあり、緊急時に備えた安全対策が実施されている。	2	9	0	
	施設の環境を常に適切な状態に保持し、衛生管理に努めている。	3	8	0	
(3) 家庭や保健・医療機関との連携	安全対策のために職員への共通理解、体制作りを図るとともに家庭や諸機関との連携をとっている。	0	11	0	

4-2. 職員の資質向上

項目	内容	評価			評価・改善
		A	B	C	
(1) 保育の計画	全体的な計画・年間指導計画に基づき、月間計画・週案・日案及び個人の計画を行っている。	5	6	0	全体的な計画・年間指導計画を、年度始めにしっかりと捉え、子どもたちの成長を促す保育が出来るように努力をしている。 自己評価の機会を年間に3回設け、保育や仕事全般に対して省みているが、もう少しお互いに情報共有をして各々が保育を向上させられるよう努力できると、より良い保育が生まれると考えられる。
(2) 保育士等の自己評価	保育計画に添い自らの実践と、子どもの育ちを振り返り、自己評価を行い、保育の改善を図っている。	3	8	0	
(3) 保育所の自己評価	自己評価表に基づき、行っている。	2	9	0	
(4) 研修	外部研修・園内研修など職員に応じた研修を行い、資質の向上に努めている。	2	9	0	

4-3. 運営・管理, 社会的責任

項目	内容	評価			評価・改善
		A	B	C	
(1) 法令等の遵守	遵守すべき法令等を正しく理解するための取り組みを行っている。	0	11	0	個人情報については、施設側から誓約書があり、明確な形になっているので、それを遵守するのみである。 施設長の責務については、施設全体で取り組むべきことについては、分担をして理解を得ながら、最終責任は、必ず負っている。
(2) 個人情報の取扱と苦情解決の責	個人情報の取り扱いは誓約書で確認し、苦情・意見などは随時所長・副所長が窓口となり解決に向けて対応	3	8	0	
(3) 施設長の責務	自らの役割と責任を明確にし、理解を図っている。	2	9	0	

総括

良い点

全体的な計画・年間指導計画に基づいて月案・週案・日案が作成され、日々の保育に生かされていることが良い。また、個々の子どもの成長発達に合わせて、フリーの保育士が手厚く応援に行ける環境が整っていて、職員が自ら様子を見て行動できるようになっている。(職員の育ちが見えてきた。)

園内で十分に遊べる環境があり、子どもたちの満足度が高い。恵まれた自然環境の中で本物に触れながら生活や遊びがあるのは、本当に理想的である。

改善すべき点

コロナ禍のため、大事をとって直接の面談が出来ず、保護者からの相談の機会が減ったり、職員会議もなるべく短く設定しているため、情報交換の場が少なくなっているため、ワクチンも行きわたってきた今からは、少しずつ対面での話し合いを保障してコミュニケーションをもう少しだけ密にしていく。

地域の子育て支援のために「園庭開放」を行うようになったが、まだ話が行きわたらず、足を運んでくれる親子が増えていないため、広報活動を積極的に行い、地域の中で必要な場になれるよう努力する。